THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年十一月五日

定價金四錢

女學雜誌

第四十一號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕如何あるを女らしきといふ乎●〔中外新報〕十數件●〔學藝一斑〕幼兒教育學○植物學一斑●〔對譯〕西洋俚諺羅馬字對譯●〔列女傳〕上條さむ女の傳●〔雜記〕芳野拾遺名歌の擧筋書○夫婦大學○婦人の高等教育○賢女金言集●〔新作物語〕一路全命海上の奇偶●〔家政要報〕西洋洗濯其他數件〔御伽草〕妻さだめ○數學問題及答式●〔寄書〕近代婦人の長壽と長け○西洋洗濯の問○詩歌等

◎女學叢誌

如何なると女らしきといふ乎

男は男らしく女は女らしくあれとは昔の人もいひ今の世の中にても我が子を育て人の子と評するにも常にいふところにして余輩とてもまた男は男らしく女へ女らしくあらん事を望むなり然れども如何なるを女らしきとして如何なるを男らしきとするかの標準とするところに至りては余輩の思ふとは大に異るがごとくに考へらるゝなりその如何なるを男らしきとするは暫く措き世の人の所謂女らしきとは主に言葉遣ひ起居動作の上にのみいふことにて言語動作の不活潑なるを温柔しき女といひ女らしき女といふがごとくに見受けらる「お梅や、何をして遊んで居ました「慈母さま、妾はお向ふの松太郎さんと、お庭で駈り競らをして、遊んで居りました「駈り競を、マア女のやうでもない、而して男の子と一所に遊ぶものがありますものか、だからおてん婆になッて困るヨ、あんまり外へ出ずと、座舖のうちでお遊びヨ、「だッても……「また……全躰お前は多辯で困ります、お隣りのお竹孃なんざア、家にばかりお在だれども、温柔しいから、お在のだか、お不在いのだか、辨らないやうだ「過にし」なんざア疾くに卒業て、「宗清」も「關の戸」もこの間あがッた樣子、道を步行にもお前のやうに、大股にお步行のことはない、少し彼のお娘の眞似をおし」などのごとき教訓は余輩の屢々聞くところなるが之に由て觀れば所謂女らしきとは即ちお竹のごときを標準としていふこととなるべし如何に温柔しきが善かればとて其所に居るか居らざるかを辨じ得られざるほどなるは土偶か木偶と除くの外人間にはよも有るまじき筈なるを斯のごときものゝ稀れに世にあるは即ちこれ病人なり斯る病人を標準として女らしき女といひ斯る女らしき女に仕立んとて發生盛んなる子女を深窓に押込め身體の運動をなして健全なる體格を保たしめんとは心掛ずして却てお轉婆なりとして男の子と交るを禁じ以て向來男女の間の交際を懸隔たら玄め清元常磐津の野鄙猥褻なる歌を怒鳴たて多辯立るをば喜びながらお多辯なるは惡しとて無暗

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

に口を鎖さしめて成長の後立派に人と應接も出來ず交際上の會話も出來ざるものたらしむるハ余輩その何の心なるかを知らざるなり斯る育かたなればこそ今の世にありて年頃となりたる婦人を見るに「アレー馬が參ります「何だ二丁も三丁も先きに來る馬と、今から其樣に恐がッて待にもおよぶまい、そして彼の馬ハ此方へ來るのでハない、それ見ナ彼の横町へ曲ッた、夫ハ宜いが、尙う少し急がうでハないか、其所の角まで行ッたら人力車が居るから「妾ハ良人と御一所に歩行うと思ひまして、是でも一生懸命でございます、こんなに熱くなッて汗が……「何だ已ハ如斯に悠然と歩行くに「それでも旣う足が痛くなりました「役に立ぬ足だ、まだ三四間歩行たばかりでハないか、よし／＼、この角に待て居ナ、已が其所まで行ッて人力車を雇ッて來るから「獨りで〻ございますかへ「知れた事ヨ、直だ「何だかどうも……」トいひながら佇立む所へ「ヤ是ハご細君誠に御無沙汰を致しまそ、今日ハよくマアお出掛になりました、何所へ……（この間此方ハたゞ默して腰を屈むるのみなり）お連さまが……口の中にて「ハイ「旦那さまとご一所でございますか口の中にて「ハイ「エー何所へ……ハア彼チヤリチへ……曲馬へ……口の中にて「ハイ」などのごときが多かるなれ世の人ハ斯る婦人を女らしき婦人とし溫柔き女といふべけれども人並の步行も出來ず人に逢ふて應接も出來ずよく物に驚きよく物に恐がるが如きハ即ち不具者なり病人なり斯る不具者たり病人たるものを女らしき女といひて世の婦人として悉く斯の如き女たらしめんとするハ取も直さず世の婦人を率ゐて不具者たり病人たらしめんとするに異ならずして役に立ぬものを仕立て世の厄介を增すものといふべきなりこれ余輩のいふ女らしきとハその標準とする所大に異る所以なりされバ世にいふ女らしきとハ重に言語動作にのみ就て溫柔優美なることにてその溫柔優美なる女の心の中を分析する時ハ外貌の女らしきに相反そるものなきを保ざるなり即ち外面の菩薩たらんとと勉めて內心の夜叉たると思はざるもの〻如きハ甚だ余輩の取らざる所なり然らば余輩のいふ女らしきとハ如何なるを女らしきといふかろハ乞ふ篇を改めて詳論せん

◎中外新報

○皇后の宮　曰まくもあやに畏きおん事ながら我皇后宮ハ萬の道に至らせ給ふが中にも和歌の道にハいとも秀でさせ給ひ、また政治上の事にも御心を寄させ給ふていと有がたき御

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ことなりとハ兼てより雲井遥かに漏れ聞えぬるところなるが今また承はるところに據れば往ぬるころ伊藤伯爵夫人を初め参らせその他の貴婦人がたの發起させたる婦人慈善會創設の擧あるを聞し召させて慈善の志厚きハ婦人の美德なりとていたく嘉させ給ひしとかされバにや去月廿六日にも婦人慈善會の會員たる資格を以て伊藤伯爵夫人外十八名の方々を宮中に召させて拜謁を仰せ付させたる上茶菓を下賜せさせ給ひしとの申しあへぬ

○婦人の位階　我が邦の女子にして位階賜はりたるハ宮中に仕へらるゝ官女がたの外ハこれなき事なるを今度大臣がたの御家族またハ優れて學術技藝に達し時々高貴のれむわたりへ召るゝ輩へも位階を授けらるゝことゝ相成るよしに聞えたるが如何にや

○外國の新聞宮中の事を記す　英國の女皇新聞ハ如何にして宮中のことを知りたりけん近着の同新聞を見るに「日本の皇后宮よりハ總て官女ハ洋服を着し束髮となるべしと諚させ給ひ皇后宮の御前に召さるゝ時ハ日本服を着し結髮する事を禁じ給ひたり斯く皇后宮親しく洋服を召させて風俗改良の標準を示させ給ふからハ上流の婦人が悉く洋服となるハ遠きにあらざるべし」とありさり記者ハいまだ斯く諚てさせ給ひたる事を聞かざるなり

○舞蹈會　伊藤、井上兩伯爵夫人を始めまゐらせ數十名の貴婦人がたハ去る廿五日鹿鳴館に於て舞蹈會を催ほされしよしに聞くまた青木外務次官の官邸内に新築の踏舞場落成の上ハ開場の祝ひかた〴〵大蹈舞會を催ほさるゝ筈なりと

○高等女學校　にてハ今度米國人プリンス女を教師に雇ひ入れられたるよし

○横濱フェリス女學校　の女教師として今度コルテンスといへる婦人が來航せし由に聞く

○婦人慈善會　本月中第三次婦人慈善會を開かるゝに先ち新たに囑せられし同會幹事高崎省吾氏の改良說といふを聞くに第一入場劵ハ本會特出のものに限り素見者なきを期して強賣の弊を矯正すること、第二當初第一次會にハ貴婦人といへる名目を冠らせし弊今に遺存し志あるものも入會を耻づるものあるやに付今後ハ會員の紹介を要せず廣く新入を許す事、第三茶店の舊慣を全廢し婦人ハ全く奔走周旋のみに止め他ハ皆男子もて擔當し淡泊に事を行ひ度との諸項のよしなるが此事ハ大に委員の贊成を得て第三次會よりハ實際執行することに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なりたりと云ふまた同會委員の婦人方には去る三十一日午後より同會委員長にて在す伊藤伯爵夫人の許に參集ありて第三次會開設のことに付協議あり終りて星ヶ岡茶寮に於て晩餐を饗せられたるよし(東京日々新聞に由る)

○伊藤伯爵夫人の意見　同夫人には往ぬる日婦人交際會の會場に於て參集の婦人がたに對ひ意見を述べられたるよしなるが今その大要といふを聞くに抑も同會は貴賤の別なく有志の婦人の結合して交際の道を廣むるが主意なれば能く會規を守りて互ひに親睦なるは勿論のことにて世の開らくに隨ひ婦人といへども廣く海外人とも交際をなすべき事あるに言語を解し得ずては爭でか交際の目的を達し得らるべきされば今より外國の語學を修むるは本會々員たるものゝ第一に心掛くべき事ならんまた常に深窓の中に養はれたる貴婦人達は家事經濟の事など毫も知らずして過ぎ來し有樣なり家事經濟の事は婦人の要務なればこれまた本會々員たるものは心掛けずんばあるべからず且つ衣服のごときも可成西洋服を用ふるはいと望ましきことながら花美虛飾に流れざらんことを勉むべくその原質も成るべく內國產を用ふる事こそ望ましけれ云々と述べられたるよし

○衣服改良會　私立女子職業學校の敎員渡邊辰五郞公立麴町小學校長田所廉行および淸水直義田口元等の諸氏が發起となり衣服改良會といへるを組織し西洋風の服制に倣ひ我が國の習俗に照して衣服の改良を計るの目的にて會員たるものには適當の敎師を選びて改良衣服の裁縫を敎授し追ては改良衣服を廉價に販賣する等にて旣に敎育に從事する人々の贊成を得たれば不日或る貴婦人を會長に推戴して此會を公けにする運びありと去る三十日の報知新聞に見ゆ

○訓盲啞院慈善音樂　同院にては去る二十五日より後期大試驗を行はれたるに前期よりは及第せし生徒の數頗る多く殊に盲生の音樂は人を感ぜしむるほどなりといふまた同院にては來る十三日午後一時より慈善音樂會を築地三丁目の同院講堂に於て催ほさるゝよしさてその音樂は琴、三味線、胡弓、尺八等の合奏數回、淸樂、明樂數回、風琴、ピアノ管絃樂等にて何れもその道の名人にて殊に西洋の音樂は文部省音樂取調掛敎師ソブレー氏および帝國大學敎師ベルツ氏ヂスセ氏等が奏する筈にて當日の通券料(一圓宛)は殘らず同院に寄附する筈なりといふまた貴婦人令孃たちも多く赴かるべきよしなれば定めて盛會ならんと思はる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎薔薇の造花　下谷區三輪町の簪商寺田治助は一名花繁といひて造花の名人なる由に聞しがこの程その筋の御注文より宮内省へ上納したる花籠は九尺四方へ枝を張り花をば紅白の縮緬にて造れる薔薇のよしにて絶妙の出來なりしよし

◎地質學うひまなび　といふ書物は近藤眞琴氏の著はされたるにて「かなのくわい」の出板なるが普通の翻譯書と違ひ我が邦の事實とも擧て解し易く説明され殊にかな書なるがゆゑ誰にも讀を得らるゝ良書なり

◎學藝一斑

○幼兒敎育學

本誌第三十一號まで引續きカリー氏幼兒敎育學といふを翻譯して掲げ來りしが編輯の都合もあり且つは植物學の大意を掲ぐべしとの讀者よりの勸もありて之を掲ぐることゝなり餘紙なきとに由り爾來中絶したりしと近頃書を寄せて幼兒持てる人は固よりその敎育に當れる人の參考にもなればとて頻りに掲載せんとを望まるゝ向も多かれば本號より引續き掲載する事となしぬ但し可成意譯となしたればその心して讀み給はんことを乞ふ

第四章　幼兒交際の善惡

〔敎育上幼兒の幸福を計るに善良なる交際の必要なる事〕嬰兒學校に於ては小兒を一人〳〵に敎育せずして他の小兒と共に敎育するものなるがゆゑに學校内に小兒の一社會をなす事なりされば小兒相互ひの間に存する勢力は限りなきものにて殊に同級に於て同様の事を敎ふるときはその勢力最も甚だしく敎員直接の勢力と更に異るところなし故に小兒等平等の安樂を計る學校に於ては小兒の幸福を増しこれに反する學校にては小兒の幸福あるとなかるべし故に學校内交際上のことを考究せずしては全く小兒の幸福を詳論したりとはいふべからず交際の善惡を論せずしては道德上の敎育は到底望むべからざるべし

〔家庭の敎育に交際の勢力ある事〕幼兒を敎育するにはその幼兒の傍に居る人々を選び善良なる交際上の關係を養はざるべからずこれ家庭の敎育に於て最も肝要なり愛と威嚴とを以て相互ひの間に戀情と信用とを生じ相互ひに氣質を知り合ひて恐怖をなし或ひは用捨をなす等の事なからしめ幼兒に對する人々は皆善良なる性質たることを知らしむべしこれ天然自然の自由を得せしめ且つ善を勸め惡を戒むるに好機會を兩親に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

與ふるものなり斯のごとき家内を規律ある家庭といひその内に行はる〻道德をバ小兒敎育の模範となすべきなり斯のごとき交際上の考へなき時ハ小兒と敎育するもその功なき事にて若し小兒をして共同の社會をなさしめず相互に獨立せしめ別々の處に居らしめ別々の事をなさしめ相互ひの通情なく一人宛別々ゞ養ひ立つる時ハ必ず自己の私欲を逞うし寛大なる感情を起す事なかるべし一家族中只一人の子を育つるよりも數人ある中にて敎育するの勝れるハ此の故なり(未完)

○植物學一斑(第三十九號の續き)

植物の實質ハ極めて細小なる包み即ちセルといふものと細管(これもまたセルより成立たるもの)といふものと包み合ひて組織となりたるなり

植物の化學上の性質ハ動物と均しく他の物よりも水氣を含むと多くして水の原素なる酸素と水素の外に組織中に炭素と多少の窒素とを含めり總て植物ハ根より水氣を吸ひ上げ葉に於て空氣中の炭酸ガスより炭素と吸ひ取りアムモニヤ塩即ち硝酸塩より窒素を根にて解かし吸ひ取るなりまた根にて多量の礦物を溶解して含み居れりこれ等ハ植物を燃したるのち白き灰となりて存せり(未完)

◎對譯

○泰西箴諺の直譯

(甲)㈠善き㈡貨物(ハ)㈢速かなる㈣市場(を)㈤造る

(乙)㈠信切(ハ)㈡穀物(の)㈢如く㈣蒔くと(に)㈤由て㈥殖る

(丙)㈠學ぶ㈡無し㈢而して㈣知る㈤無し

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) Good ware makes quick markets.
㈠ ㈡ ㈤ ㈢ ㈣

〔意譯〕善き品ハ早く賣れる

(乙) Kindnesses, like grain, increase by sowing.
㈠ ㈢ ㈡ ㈥ ㈤ ㈣

〔意譯〕信切もまた穀物の如く蒔けバ殖える

(丙) Learn not, and know not.
㈠ ㈡ ㈢ ㈣ ㈤

〔意譯〕學バざれば知る事なし

FUZIN WA ASI.

Women is like the reed,
which bends to every breeze,
but breaks not in tempest.

Fuzin wa asi (蘆) no gotosi;
isasakano kaze nimo tawame
rarure do, mata arasi no tame
ni oruru koto nasi.

六百九十三

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○上條きむ女の傳

おのが意に深くしみて愛たしと思ふものハ又慈しみ厚き人にところざすも自然さるべき人情ながら月花を見て友を慕ふたぐひの風雅をおきてハ色ある衣味ある食物などにてぞ假初にともよせまほしうなどハ云ふめり親しき同胞の間よも實に其おと著く見えて麗ハしう愛たき物語ハ何ばかりかある深く訊ね遠くもとむとも多くハ聞えぬなるべし甲斐の國北都留郡上野原といふ地に上條何某といふ人ありけりおきむ作太郎といふ男女ふたりの子をもてり家貧しからねど學校にのぼせて物學ばせむ意もなくてありしをおきむハ深く歎き父のこゝちよげなる程を見てハ只管就學せまほしきよしを請ひのぞみしかば終よ許して其村のなにがし學校に通ハせ初しよりおきむハ幼き弟の作太郎を勵しつゝともに學びて毫怠らざりしかバ姉ハ十三の春卒業し弟もまた同じ年ごろにて全課を卒業してけりおきむハ猶すゝみて物學びせまほしといへど早う母に別れて家の事とりまかなふ者もなきにさばかり物學びに心入れて何にかなるとてふつに許さねばさのみハ強ても請ハず朝夕父に仕へ弟をはぐゝみ召使ふ織女作男などのうへ迄も萬に心づけてよく勞りしかば皆めづらしき少女ぞとはめのゝしりぬある時作太郎ハ姉にむかひて云へるやう小學全課を卒業したりとて何ばかりの事にもあらず進みて高等の學校に入らむハもとより願ふところなれど容易く許さるべきけしきも見えねば何某のもとにて會讀質問をもせば少しハ益あるべしと思へど書籍のなきを如何してまし甲乙も此比より夜學にゆくといへるに此事さへ意に委せぬがいと遺憾うなどかきくどくをおきむハ熟く聞き終りてうち笑みつゝさな歎きたまひそいのよもして姉が其書とゝのへて參らせむとて軈て父のまへにゆき何げなく四方八方の物語しつゝ漸く衣類帶などのはやるものゝ話しに移りしに此ごろ東京にてたれもかれも好みて多くしむるハ縮緬の更紗染の帶なりとの古代摸樣のめづらしきも今咲きたる中形もいと多くある家にありとか聞きぬもとより面たゞしきそれ着の料にハ似つかはしからずもあらめど斯る類もひと筋ハあらまほしきを購めて賜ハらずやといへバ父ハうち頷きつゝはやりとごに聞けば可否ともいはずはしといふハ少女等が常なれど程なく嫁入りの心がまへする時ハ綾錦のも購ひぬべしさる輕き品ハいく筋ありとても物の數かば今

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

霎時よきもの〻出來るをりと待つべしとてつや〳〵承諾ぬとなほとざまかうざまに請ひて止ねばさらば是にて購ひてよ足らずとて又取りにな來そとて三圓許出して與へぬればおきむは悅ぶこと限りなく日比の本意とげぬとておのが部屋へ歸り來つ〻髮かきあげ衣あらためなどしつ〻作太郎をともなひて立出しは早くも帶を買ひに行きけるよと思ひしには違ひて某の町の書肆のもとにて弟がほしといふ書これかれ二三部をかひ得て歸りしとも知らねば父は如何なる帶ぞとくもて來て見せよかしといひしにおきむはいとつ〻ましげに今更に斯く申さばなどて欺きつるぞと叱り賜ふべけれど實は帶をかひしよは侍らず作太郎が此日ごろ物學び

六百九十五

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

せむよ其書なしとて歎くが痛しければ窄ちにこひ聞えて買ひてとらせつるなりおのれのやうなる者も女といへば其粧ひには物をもとしゝ賜はねど物學びのことゝいへば深くも意とめ賜はぬぞいとくちをしき男の身のよそひは洋服にもあらず時計帽子靴のたぐひにもあらず物學びして人にいさゝかも優れる處あるとぞ第一の身の粧ひとはいふべきものなる然れどこを最初より申さむは我かしこげにと懲し賜はむがうしろめたきのみならず若事ならずしもあらば如何ばかりか弟の爲にも心苦しかるべしと思ひてなむ欺きまゐらせつる今はいかやうに其罪責めたまふともつや／＼厭ひ侍らずなむと涙ながらよいひしかば是迄はさばかり學問に心入れざりし父もおきむの語に耻ぢて實にさりけりと覺りしのは叱り懲らしもせず却て弟を思との厚きをめで物學びに心傾くるを制しも止めずなりしとぞ斯るかくろへ事は知る人もなきが常なれど久しく學問をしもえうなき事のやうに思ひとれるに此おきむの殊勝なる心ばえにて初めて眞實の筋とさとり知れる悦びに或人にものがたりなどせしより漸くからう廣く世に聞ゆるやうになりにけむまして其近傍にはいとゞしく愛たき少女がわざともてはやしければほどなくさるべき人に縁さだまりて末たのもしき身となり作太郎もまた姉の厚き志しをあだにせじとてひたぶるよ勤め學びしと聞けば今は學びの力もてよなく添へるなるべし

◎雜記

前號川元さい女傳の下段十四行決してなく◎とあるはなし○の誤植同く十九行幼の傍訓におさな◎とあるはをさな○の誤植又插畫の上の段七行遭へる◎とは○との誤りなり

○芳野拾遺名歌の譽筋書(前號の續き)

［序幕の續き］(芳野山麓假陣營正行居間の場)この場は楠左金吾正行見臺に向ひ兵書を繙きさして「傳へ聞く唐の玄宗は安錄山が謀叛によりその身を巴蜀に避け給ひまた我朝の淨見原のすめらぎは近江の朝廷に襲はれてこの芳野山に隱れ給ふこと皆逆臣王位を犯し一度天下の亂となるも終には聖主の德化に服すこれ天道の順理にして殊に當今聰明叡智にまし／＼蜀の照烈皇帝が英略にもをさ／＼遜り給はねば再び反す君が御代などろの時のなかるべきトは思へども衆寡敵せず良き計略もハテムヽ」と獨語する所よ郎等出て舍弟正儀本國より密用ありとて來着せることを取次ぐ正行は本國千早の要地を預り

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

置し正儀の何とてこゝに來りしかと不審ながら對面の口證濟てその仔細を語り合ひ正儀ハ近日の形勢を揣りて正行の討死そべき樣子を察し今生の暇乞に來りし旨を述べ正行ハ已れ身體兎角に勝れず迚も長壽の叶ぬ命快く討死して忠義の武士を激勵する所存なる旨を明して後事を正儀に托し兄弟愁然たる折柄暮の鐘に心を轉へ正行ハ陣所〳〵を見巡らんと用意しつゝも(正行)頓て後程歸陣なし今宵ハ夜と共に酒宴と開きゆる〳〵互ひの別れを惜まん(正儀)某とても明日ハ早く本國へ立歸れバ今宵一夜が兄弟の永き訣に酌みかはす(行)その盃の數よりも廻りハ早き光陰の(儀)惜ても倚は惜まるゝハ(行)弓矢執る身の(兩人)嬰れじやナア、にて段落となる

(同)(皇居長廊下の場)この場ハ前段の横山丹下椽の下より伺ひ出て奥深く忍ばんとし伊賀の局に出逢ひて闇中の立廻りありト、局の爲めに胸を取られて血を吐きて即死するに終りて段落となる

(序幕返し)(大和國六田川原の場)この場ハ前段の內侍板輿にて叔母の許二階堂を指して河原にかゝるを前段の時景が郎等關の伴吾手勢を率ゐてこれを要奪ハんとしト、輿夫を脅やかして無理無体に上手に舁き込む處に楠の郎等南宮八郎鳴尾七郎等こゝへ廻り合せ內侍の供人を助け內侍の行方を尋ね直ちに跡を追て行くと一小節とす

(同續き山手の場)この場ハ前節楠の郎等既に時景の郎等手勢に追ひ附き立廻り最中內侍ハ隙を伺ひ板輿より出て走らんとする所に待伏せしたる時景がこれを捕へて復も危き折柄前節の八郎七郎こゝに馳つきこれを支へて時景の郎等と立廻りありこの間に時景ハ內侍を引立て上手に入る八郎七郎心急ぎて奮鬪すると二小節となす

(同芳野山續き山中の場)この場ハ「夫れ巖石峨々たる山巒ハ名に負ふ芳野の山續き隈なき月も影くらく谷間を傳ふ山彦のいと物凄き山中に憐れ內侍ハ曲者のえてふにのゝるうき難義既に危き時しもあれ駿馬に鞭ち馳せ來るハ今南朝の柱石と人も知たる楠左金吾正行が着なす鎧の花やゝに月にきらめく打物の四邊を拂ふて見えたるハ目覺しくもまた勇まし〳〵」の大薩摩にて正行出來り內侍危難の知せを聞き走せつきしがとのセリフありて向をスカシ見て弓に矢つがひ射込しまゝ一鞭あてゝ上手に馳せ入る」一寸變りてこゝハ辨の內侍胸に手をおて動氣に惱む傍にハ時景矢の立たるまゝ仰けに仆れ死して居り正行徒歩よて內侍を介抱しながら(正行)某しこれへ參りし

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

からハ早やお氣遣ひハいハず心を慥かに持給へ（内侍）思ひかけずも賊徒の辱めを免かれしハ全く和君の御恩による何を以て報ずべき有がたき惠みにこそ（正行）コハ思ひよらざるそのお詞たとひ見も知らぬ人なりとも斯る狼籍に出逢ふからにナド打棄て〻置るべき矧てや御身ハ官中に事へ給へる官女なるに萬が一賊徒に犯し辱しめられんにハ御身の耻辱のみならず朝家の耻辱この上あらず斯く申す正行等守護の務に怠りしその罪なしとやされず折よく道に出合しハ御身の幸あるのみかハ云々のセリフあり處に内侍の供人楠の郎等と共に出來り楠の弓勢を稱し内侍の無事を賀することどもあり供人に向ひ（内侍）正行ぬしの助けにより料らず危難を迯れしぞや（正行）某路次の警衛なせば内侍にハイザわれなる輿へ（内侍）ソレでハ餘り（正行）その斟酌ハ無益なこと御門に仕ふる御身なれば我身にして我身にあらず夜のふけぬ間に少しも早う（内侍）然らば仰に從はん、ト正行と顔と見合す正行少し身をへり下りて「まづ〳〵」ト一禮する内侍天晴れ豪傑頼母しと正行を見る氣味合十分にて三小節となる（未完）

○夫婦大學（第三十九號の續き）

結婚して夫婦むつまじく幸ひならんとと思はゞ常に我儘を起すべからず何事に就ても我が思ふことゝ他の意と協はざる時ハ則ち我が思ふことをバ犠牲となすの心得なかるべからず他を喜ばしむるときハその悦びの光りハ即ち我が面を照し他の重任を引受けて脊負ふときハ即ち我が心の重荷を輕からしめ謹むこゝろ深くして己れに克つの力を養へばその力益々強くなり以て行き他の活業を進むべしこれ即ち我が身の上に歡びを招くの道なりと知るべし他に與ふることなくば他より受くることもなく蒔ざれば収獲ることもなく他の荷物を脊負はざるときハ己れ自身の重荷に堪へざるべし良き夫良き妻なりと思ひて結婚し共に一家に暮すに當り倘は艱難辛苦するものあり斯る人々ハ皆我が心を犠牲となすべき自然に行はるゝ大法に背き他に幸福を與へんとするよりも己が他より受くる事の厚からんこと望むが故なるのみ斯る人々ハ己れハ他に對ひて如何に寛裕かりしかと思はず却て己を氣附己れの爲になす事ハ總て己れを愛する者の義務なりと考ふるならん（未完）

○婦人の高等教育（第三十八號の續き）

右にいふ在學中心體の弱くなりたるものとても多くハ生來より弱きものにして勉學のためのみにあらざる事甚だ明かなりその證據にハ右に述べたる在學中益々健康に趣きし婦人の中

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

その父母の健康なるものハ僅かに百人の中三人に過ぎずしてその餘ハ皆父母の健康ならざるものなれば全く在學中に自ら健康となりたるなり之に引かへ在學中不健康となりし婦人の中その父母の健康ならざるもの百人に付十七人に當れりされバ父母の不健康なるも甚だしからざるものハ在學中に却て健康となりまた在學中不健康となりたるものハ生來き虚弱きものにしてその父母もまた甚だ不健康なるものどもなり扨又腦病の疑ひあるものハ僅か百分の三十にして眼病あるものハ百分の十二なりこの統計表の説明にも此表による時ハ婦人に高等の教育を授けたりとて必ずしも腦力身体を虚弱くならしむるとハいふべからずといへりまた紐育府の大醫達の説にも婦人十三歳より十八歳までの間に非常の勉學をなさしむるハ心躰のためよき事にハあらざるもその以上の年齢にありてハ決して妨げなしといひその中にて最も學名ある人の説に當世期即ち此百年間前五十年間の婦人ハ後五十年間の婦人よりも多く子を產みたれどもこれハ教育の爲めにハあらず總て社會に上等の婦人ハ子を產む事少なく下等の女ハ多く子を產むことを世界一般の有様なりゆゑにムール氏の説を信ずること能はずといへり(完)

○賢女金言集(大阪花のや菟道君の報)

紫式部曰　皆人毎にのぼらざるうちハ人の諫めをもよく入れ道を守る心あり其の望を叶へ得て心の儘なるときハ皆驕りになりて貴をいやしめ賤きをあなどるものなり能く〳〵こゝろすべきことにこそあれ

掄子(貞平親王の女)曰　道德仁義ハ人の食なり是を得るときハ山中海底にもよく身を養ひ是を失なへバ帝都金殿中にも飢死にぬ

昭子(貞信の室)曰　我に眞實ある時ハもろ〳〵の人皆我が兄弟なり己れ眞實を失なへバ兄弟親子のあひだも讎敵となるものなり

貞子(紀有常の女房)曰　男子ならぬ身のふるまひハ思ひ千々にありとも色外にいださぬを女子とやいふべし只にや女ハ口さがなく心くねりて淸きとのこの心よミえんこそはづかしきものならずや

堀河曰　人ハ己を正しくして理にうとからぬぞよき、よこしまなる道にハ人のよく思ひつくものなりおのれ正しかればよこしまにはまよひはべらず聞て益なきとハ大やう聞ぬがよきものなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○一躍全命海上の奇偶（第一回前々號の續き）

越利孫(Ellison)は、思はず振返り見るに、十歳ばかりとも思しくて、眼色清涼しく、いと愛らしき少女の、長くて麗はしき髮の毛をば、後背に垂れたるが、喪服を衣て、小さき人形を手に持ちたるなりけり、「何處に傘が…」トいひつゝ、其所邊を見廻はせば、彼の少女が「アレ彼所に……風が強く吹きますから、如彼に遠くへ行ました、モウ捕るとは出來ますまい、彼の傘がなくなッては慈母さんが困ります」トいふを、聞より早く、越利孫(Ellison)は、風に吹れて甲板の上を、跳り廻りける傘を逐ひ行き、漸々捕へ、少女に渡さんとて、その柄を見るに、銀にて造りたる把手に Mrs. Charles Lovell. と刻附、紙片に武出發畳士丸にて New Zealand の Crist Church に至る船客と記したる小札の括附てあるを讀ながら、少女に與へければ、少女は痛く喜びて「誠に有がたうございます誠に…何卒同伴に來て、慈母さんに渡して喜ばして下さいませ、慈母さんが氣遣ふて居ますから」といひながらEllisonの手を取るにぞ、あどけなき少女に引るゝまゝ誘はれ行く向ふに、寡婦の服を着け、色いと黒き絹被りて、面を覆ひたるは、いはねど著き喪中の婦人、椅子に倚たるまゝ、少女の近寄るを待兼てや「オヽ、Clara どうして、お前にマアその傘が捕まりました」といへば此方は「慈母さん、妾は、兎ても捕らないところを、この叔父さんが逐へて行ッて捕へて下さいました」といふに「ソーかへ、それはマア、ご信切な」トいひつゝ Ellison にうち對ひ「誠に有がたうございます、妾どもは、此娘と二人限で、頼とする人もございませず、またニ人ともこの度が初めての長い船旅…誠に心細いことでございます、何分……「それは嘸」トEllison は氣の毒氣に「殊に如斯天氣で、今晩は是レヤア暴風にならねば宜うございますが」トいへば「ハイ」ト Lorell婦人は吐息をつき「誠に氣遣しうございます、願ぞ無事で行く所まで參りたうございます、妾どもの爲には、新しい別の世界へ、生れて行くやうなものでございますから「私もご同樣で… 彼地へ行たとても、別に宜い事が有らうとも思ひません、生れた國で失敗ッたものは何國へ行ても同じ事で……「惡い事ばかり續くものでもございますまいから、お互ひさまに氣を落さぬやうにして、望みがなくてはなりませぬ」トいふ尾に就て Ellison は「さう思ふて、矢張常も

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

失敗の仕度ばかりして居るやうなもので、私の身の上に就て申さば、恰どこの大船は失敗を載て行くと同じとでございます、私し一人がこの國の失敗を脊負て、國New Zealandへ行くと聞けば、國中のものが喜びませう、實に失敗なッてばかり居るものをば、人の嫌ふも尤もと考へます．なんと其様ものではございませんか」トいふに婦人も「實は妾も其様身の上、矢張失敗と、人には思はれませうが、原來をお咄し申さば、愛き好んだ人と、勝手氣儘に縁を結びましたとて、一家親類には見放され、今ではその……」ト少し聲曇らし眼もうるみて「今ではろの良人をも失ひ妾とこの娘…このClaraと二人で世の中に彷徨ふ身の上とな

七百一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りました」ト聞てEllisonハ霎時語もなかりしが「併しNew Zealandにハお知友がお在なさるのでございませう」「ハイご存知でございませうが、Orist Churchと云所に一人の兄弟が……妾の兄が參ッて居ます「イヤ私も初めて參るので何といふ所があるか薩張知ません「妾ハその兄弟に逢ふて、早くこのClaraを預けたいと存知まして、それバッかりが氣掛りでございます、妾も死ても長くハこの世に居られませんから…「そんなにご病氣ともお見なさらないが「ハイ併しお醫者さま方のお咄でハ、長くて一年か二年…是ハしたりClaraが聞てハ…」ト少し離れて遊び居たる、少女と見返りつゝ、一層聲を竊めて「眞正の事でございます、夫故この長い船旅も心が急がれまして、誠に氣遣ひでございます「もし又何なりとも、私に叶ふた事もありますなら、及ばずながら出來る丈けのお力になりますから、マア〳〵お氣丈夫に……「誠に有がたうございます「船旅をして、身體の回復なるハ往々ある事でございますから、くよ〳〵思ハずと心を慰めてお在なさらば、貴婦のご病氣も醫りませう」トいへバ婦人ハ身を振ハし「イヘ〳〵、妾の病氣ハ死ても醫る氣遣ひハございませんが、船旅が藥とならバ、責て彼地へ着ますまで、何卒生て居たうございます」といひつゝ、煤積層ね

たるが如く、黒き雲の足早くて、いと物凄きまでに暗き空を眺めやり「マア誠に、どうも恐いやうな空でございます事」といふにぞEllisonも「ヘイどうも惡い天氣で……何でも惡いことハ、私の身の上から來る事と思ハれます、全体私ハご幣擔ぎの所爲か、何處へ行くにも天氣が惡いとか、何にか私の身に伴ふて惡い事が起ると思ハれます」トいふに「左樣でございますか」ト婦人の答ふる折しも、彼の少女ハ來りて、母の肩に倚縋る風情の、あどけなくて愛らしきを、ジッと見ながらEllisonが「眞正に左樣思ハれます、知友と訪ねて行けバ、その家の子供が病氣になるとか、愛犬が足を痛めたとか、馬車の車が毀れるとか、芝居へ行けバ、座頭の役者が出ないとか、氷滑べりへ行けば氷が解るなど、何處へ行ても、我身に伴ふて六な事ハありません」ト語るを聞き居たる彼の少女が「夫じやア一同が誰か敎母を賴んで、厄秡をして貰ハねやアなりますまい」トあどけなき語にEllison「ハヽヽ成程さうですヨ、斯うしてお心安うなッたハ宜けれど、貴女方の爲にハ、私のやうな不仕合ものの乗らない、外の船で、お出の方が宜ッたかも知れない」ト打笑へバ、Lovell婦人ハ物氣遣ハしげなる容貌にて「併しこの船ハ大丈夫な船でございませうの「大丈夫でございますとも、此

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

線路を通ふ船の中で、一番早くて宜い船だと申す事ですから、決して私の愚癡咄を、お氣になさらずとも宜うございす、今に彼地へ着ましたら、馬鹿らしい、愚痴をこぼす男だと、お笑なさいませうヨ、時に雨も大層强くなりました、下へ降りて、船房へお這入なさるなら、肩掛なんぞは、私が持て參りませう、……マアさうしてお置あそばしませ、一纏めにして私が持ます、貴女は私の腕に縋ッてお出なさい、お連れ申しませうから」と、Lovell婦人はEllisonの信實しくいへるがまゝになりてぞありける、このとき雨風益々あらくなり、婦人はEllisonの腕に倚らずては、中々に歩みも得ならず、少女のClaraも既てに船に醉ひたりと見え、確と母の手に取附きて、共に船房にぞ入りける、かくてEllisonは、甲板に立歸らんとて、楷段を上りける折しも、心惡しと思ふ、彼の暮井戸(Boyd)に行き逢ひたるに、ゝの人は何か心に詮ぎつゝ、此方を白眼み、互ひに嫌はしき氣色にぞ見えける、原來Boydは容貌醜くからぬ方なれども、その顏は惡々しき見えなるが、Ellisonの眼には猶更にとこそ思はるれ○かくて船は堅橫にいたく搖ぎて、恰も醉る人の歩めるがごとく、陸地の燈光も見えずなり行き、月星の光りもなく常夜の界に入るとぞ思はれける、(第一回畢)

◎家政要報

○西洋洗濯 は奇麗になる代りには品物が損じるとの苦情は人のよくいふところなるが以來のゝる憂ひなからしめんとて京橋區神田區日本橋區の西洋洗濯を營業となせるもの申し合せ規約を設けて組合を立て以來は專ら石鹼のみを用ひて洗濯となしコロールカルキ、硫酸、苛性曹達などの類は一切用ひざる事に取極めたるよしなり

○青梅フラチル 武州青梅驛の織物を業とする人々が發起にて紀州フラチルにならひ今年初めて綿フラチルを織り出したるに中々の上品にて紀州産よりは聊か高價なるもその品質は遙かに勝れりといふ

○青物類 は先月下旬ごろより近郷より持ち出さゞるにより一割乃至二割方も引上げ殊に葱は近傍の農家にて作り出すもの例年の半分に減じたるがゆゑ昨今非常の高價となり一貫目十五錢ぐらゐなりといふ

○白米小賣相塲 は一圓に付一等米一斗三升、二等米一斗三升九合、三等米一斗四升四合、四等米一斗五升五合、五等米一斗六升九合なり

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○妻さだめ

ある年若き人妻を迎へむとて其心しらひせしに程遠からぬ里に三人の女もてる人あり何れも容貌美はしと聞えれバ之をと思へど三人の中いづれとも定兼しに男の母かしこく計らひけり先づ三人を同じ時に招きて卓子の上にチースを置きて其食ふやうを見けるに姉ハ皮も殘さずいと早く食畢りぬ中なるハよき處のミを撰び食ひて切りたる皮をうち散し置きぬ末なるハ皮を切りたるも薄からず厚からず心しらひ見えて食ひたるあと汚しからず取したゝめたるを男の母の見ておことの妻と定むべきハ此乙娘の外ハあるべからずとて終に迎へとりしに萬の事つゞまやかに家政よく整ひて末長く睦ましく暮したりとなむ昔小田原北條の何某といへる大名其子の飯食ふを見しに汁を飯にかけし時汁多くて膳に溢れしを見て汁と飯との多少の見はからひの分らぬ程にてハ此關八州の地を敵に犯されざらむといと覺束なしと歎かれしとて此子も常にこの一言を心に忘れず萬に心づけしとか書に見えたり假初なるもの食ふ時も用意の深さ淺さハよく知らるゝものなれば心ある人ハ見て其平常の情態をも推量るぞのし女ハ殊に斯る事にも用意あらまほしきものなり

○數學問題

(甲)金二萬四百七十三圓を甲乙丙三人に分賦するにその割合甲と乙とハ六ト五との如くまた乙と丙とハ四と三との如し然らば問ふ各々得る所幾何

(乙)こゝに幅若干間の堀を隔てゝ高サ卄四丈の燈臺を設立せり今此燈臺の頂上より堀を越えてその岸に達する長梯を造りしにその長サ五十六間なりといふ然る時ハその堀幅幾何なりしや

〔右數學問題の答式ハ今月二十日までに記者の手許に届くべきものとす其後達したるものハ本誌に掲げず〕

○三十九號數學問題の答式

(甲)

$x=$甲の年　$\frac{1}{2}x=$乙の年とす

$$x-22=4\left(\frac{1}{2}x-22\right)$$
$$x-22=2x-88$$
$$x=66$$

答六十六年

(乙)

$$\frac{1}{20}+\frac{1}{30}-\frac{1}{15}=\frac{3+2-4}{60}$$
$$=\frac{1}{60}$$

答六十分即ち一時間にして滿水す

右解答者○東京松浦ことと同中村のね同伊藤萬太郎仙台梅浦いち○肥前松浦、久永太郎○千葉竹本千代○橫濱吉田久秀

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎寄書

○近代婦人の長壽と高さ　東京　永井　はな

秋の夜の長きに眠り飽きて徒然なるまゝ枕邊に散りぼひたる書どもこれかれ手にさはるがまゝを取りて讀める中に近代婦人の長壽と身躰の高さなど書きたるものあり女學雜誌の埋草にもと寫して貴舍に寄す

安永五年江戸中高年のものを選ばれしときに大工喜兵衛の祖母百二十一歳文化三年尾張侯の中間勘助といふものゝ母百歳といへどその嫁入するとき詐はりて三歳を減じたりといへば實ハ百四歳なり同三年大石良雄の女百十四歳また文政元年陸奥國二戸郡一戸村の農山崎清兵衛門(百二十九歳)の妻さん百三十五歳その子清藏(百八歳)の妻せき百五歳また寛政八年に參河國寳飯郡水泉村の農滿平(百九十四)の妻百七十四また身躰の長大なるハ延寳年間に近江國より江戸へ來りて衆庶の觀に供せしお米といふハ長け七尺三寸文化年間品川宿鶴屋の娼妓おつたといふハ年二十歳にしてその衣の長け六尺七寸を對丈なりとあり倘ほえらべたらんにハ長壽なるもまた長け高きも多かるべし今の世にハ斯る婦人あるや否

○洗濯法の問ひ　宮城　狩野　類與

黒色、ねづみ、縞などの羅紗を洗濯なすに簡便なる法なきや否廣く江湖の姉妹がたにおん尋ね申上ぐ

〔記者曰す羅紗を洗濯するにハ微温湯にて洗濯石鹸を解し泡を立てゝ(ブラシユにて石鹸と摺れバ泡出來るなり)その泡にて羅紗を洗ひ冷水にてよく濯ぎいまだ水氣ある内に火熨斗をなすべしと聞きたるが試み給へ

○天滿宮によみて奉りける　芝三田　中村かね子

天滿る神のめぐみハ水くきのながれての世もなどか絕えせん

○暮　秋　仝

招くべきすゝきもいまハうら枯れて心のこさず秋の行くらん

○初冬閑居　縫　みさと

殘菊蕭々起二感情一、滿庭ノ霜色竹籬ニ清シ、衡門寂寞無二人ノ訪一フ、唯聽ク松風澗水聲、

本誌愛讀の諸君より態々書を寄せて本誌を賞賛せらるゝもの甚だ多く殊に本誌の体裁などに就き如何にせよ斯くてハ惡ししなど細かに忠告を賜ふ向きもありて舍員一同感謝に堪えず益々勉强して厚意に背かざるべきなり扨て斯る書面ハ一々本紙に掲げざれども永く机上に保存致すべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

●通俗學藝志林

毎月一回發行

定價 一部金拾錢●五部前金(郵税共)五拾二錢●拾部前金同壹圓●郵劵代用ハ一錢形ヨて壹割增●特に一部ゟ入用の向ハ一錢郵劵十一枚ゟ送附の事●前金の外一切遞送致さず候間ゟ注文の節ハ必ず代金御添送可被下候

本誌ハ本邦有名の諸學士ハ勿論歐米諸大家の論説を載せ高尚なる學術も其文ハ平易を主となしたるも誰にても讀み易く解し易し發行以來大いに江湖の佳評を給はりたれば今般更に体裁を改良し論説ハ固より雜錄雜纂總て有益にして面白し殊に西洋の小説を反譯し或ハ理化學の問答を掲載なしたれば中小學校の教員生徒ハ勿論農工商家の文明世界ヨ立ちて優勝劣敗の戰爭を試みんと欲する諸君ハ實に此知識の無盡藏たる通俗學藝志林を讀まざるべからざるなり

大阪東區淡路町二丁目十三番地

發行所 通俗學藝社

かなのくわい

本會の趣意ハ學問の道を容易くし世の便利を計らんが爲ヨ總て假名のみにて物書く事と世に擴むるにあり○誰にても此會に入らんと思ふ人ハ其住所と姓名とを假名にて記し(傍らに漢字をも添へて)事務所へ言ひ込むべし會にて之を認可そる時ハ會員證を贈るべし○此會に入りたる人ハ會の費用を資る爲めに次の四通りの内何れにても其人の隨意ヨて出さるべし

○第一類 一度限金十五圓以上隨意
○第二類 毎月 三十錢ヅヽ
○第三類 毎月金十錢ヅヽ
○第四類 一度限金五錢以上隨意

此四類ノ區別ハ別ニ仔細アルニアラズ志ハ厚クトモ其人々ノ都合モアルベケレバ其隨意ニトテ立テタルナリ

但シ二類三類の分ハ三箇月分又ハ六ヶ月分を一纏めにして前納にせらるべし差出を手續ハ郵便小爲替にても一錢の郵便切手ヨても差支なし○會員へハ毎月かなのてかゞみと云ふ雜誌を配賦すべし但し四類の會費を出す人へハ配賦せず

東京麹町區有樂町三丁目二番地

かなのくわい事務所

教育時論第五十五號目錄

明治十九年十月廿五日發兌一册定價五錢郵税共六錢十册前金郵税共五十八錢二十册前金郵税共壹圓拾錢

○社説 師範生徒に教育上の熱心を喚起せしむるの必要

○輿論 一斑嬰兒語忽ニス可ラズ●體育上ノ注意●僧侶ニ教員ヲ兼ネシム可ラズ●女子ノ體操●男女ノ間ハ兄妹ノ如クナルベシ●小學校ニテ格言幷ニ寓言ヲ以テ教授スルノ利害如何●通俗三寶新説

○論説 實物教授論(郡司篤則)●小學試驗法ヲ論ズ(西岡品藏)

○學術 黒科氏創造史(承前)山形悌三郎稿●婆氏教員養成論(承前)松嶋剛譯●哲學道中記(承前)井上圓了

○雜記 かなのくわいかきかたかいりようぶのしらせ●英文三節●送別の歌●天氣の歌●燕澤の碑の讀方●嬰兒語蒐集

○論題 小學校ニテ書牘文ヲ教授スルニ男女文体ヲ同一ニスルト之ヲ區別スルトノ論議(十六編)

○内外雜纂三十件○官報抄錄○廣告

東京下谷區練塀町十四番地 開發社

社告

地方看客に對し前金相切れ候節ハ本誌發送見合候に付引續き御購讀相成候方ハ前金相切れざる内御送金可被下候

續文舍會計掛敬白

本誌代價表

	正價	此郵税
壹册	正價金四錢	此郵税壹錢
拾册	同金三拾八錢	同拾錢
二拾册	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾册	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾册	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手ヨて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替劵と本舍へ御送附可被下候但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 續文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野銻五郎

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY